

看  
聞  
日  
記

自永正  
自三月  
長享至元  
九月至十二月  
至四年



20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51

看  
聞  
日  
記

自永正三月長  
九月至元至二月年  
至十二月年

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

看聞日記

正長二年  
自三月至十二月



正長二年己酉三月九日、天晴。今日室町殿被加首服、加冠尾張守、理髮兼帶也。島山管領子息也。父法躰之間子懃仕云々、鹿苑院殿元服之時、細河武州加冠其佳例云々。每事嚴重也。非公家之儀、一向武家申沙汰云々。其夜自禁仙御馬太刀被進、自武家又被進、内裏御劍平綱金作、御馬一疋置鞍桐金文。仙洞御馬一疋白鞍豹虎皮切付、管領進名馬云々、白太刀一腰、金百兩被進云々。是依舊例如此、室町殿へ御劍御馬自是も進之、諸家同前。

十五日、晴。今日室町殿昇進參議中將並征夷大將軍被宣下、名字義教ト改名、元義宣也。世しのふと被讀成不快之間被改云々。御元服以下賀禮馬太刀諸人進物悉八幡御寄進、社務善法寺被遣云々。

廿三日、雨降。室町殿參内院參行粧殿上人實雅朝臣、雅兼朝臣、永豊朝臣、伯少將治泉、三條中將。衛府帶刀如恒、帶刀直垂非金薄、島山大名五人可供奉之處、管領與武衛座次、勸解由小路。

正長二年三月

一

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

前後相論、仍一向ニ被止、先參内御對面、攝政祖候、勾當候、公卿殿上人濟々祖候、無一獻廳退出、次仙洞參、殊更三獻、男女中不候、男役送畢退出、凡初參也、

廿四日、晴、縣召除目始行、執筆中山宰相中將也、

廿九日、晴、除目竟夜也、室町殿大納言昇進之間、兩三日依惡日延引也、不經中納言自參議直任大納言邂逅之例歟、昨日先正階宣下、爲清朝臣口宣持參、金十兩被下云々、太炊御門大納言信宗卿任大將、室町殿御執奏也、故內府不任大將一代中絕也、再興眉目之至歟、

卯月二日、晴、鄉秋參語世事、去月十三日八幡於社檀神人二人腹切了、社頭觸穢之間可被造替歟否、社家ニ被相尋、以先例社家注進、仍腹切所社檀之柱板敷御簾等許被新造、於御殿者不被造替、神事無爲云々、  
八月四日、雨降、今日任大臣節會被行、左大臣一様近衛兼良、右大臣房嗣、內大臣久我清通、室町殿大將被宣下云々、

十七日、晴、室町殿今日八幡社參初度也、扈從公卿万里小路大納言、勸修寺中納言、廣橋各津衣飛渡中納言、殿上人雅兼朝臣、雅永朝臣、實雅朝臣、永豊朝臣、益長、政光、嗣光各騎馬衛府侍騎布衣、帶刀如恒、諸大名近習等其外冷泉宰相入道、陰陽師有富朝臣等參、先左妻牛若宮殿被參、次八幡云々、當代社參初度之間、行粧被刷云々、昨日管領畠山上表也、勘解由小路武衛可再任云々、  
廿四日、晴、管領武衛今日被補云々、

廿五日、晴、仙洞有舞御覽、室町殿被參、別而被招請申御結構也、攝政三寶院御請飯祖候、一獻破子等被盡善美云々、女中御陪膳也、室町殿万疋持參、申一點舞樂始子初點終、舞了御退出云々、

舞御覽散狀

參音聲

万秋樂破

安摩 二舞

正長二年八月

三

正長二年八月

四

万歳樂 地久 蘇合秘曲 新鳥蘇 拔頭 八仙 青海波 胡德  
樂 河南浦 新靺鞨 太平樂 狐梓 龍王 納曾利  
退出音聲

左 右

長慶子

舞人

左

正葛 陵王祿万里小、英葛 忠葛 藤葛 季葛 狐葛衡 同行俊  
路大納言懸之、  
内大臣懸、  
拔頭祿前、

右

忠信

落蹲祿花山

院大納言懸、

忠國同前、

忠清

多忠右

太神晴清

同行枝

寺侍

玉手晴方 藤井國氏

所作人

笙

民部卿教有 中御門宰相宗繼 右衛門督隆盛 爲秋 万歳樂音依頭  
山科  
卿有  
北畠  
卿繼  
萬歳樂音依頭

達例 早出、 家秋 自蘇合至 邊秋 村秋 遠秋 豊原高秋 同緣秋

同光秋 同重秋 同言秋 同康秋 同直秋

筆築

兼重 安部季長 同季久 同季治

笛

前内大臣 中山宰相中將卿定親 景房朝臣 景勝 景藤 太神景

琵琶

園前中納言基秀 基世朝臣 孝長朝臣

箏

正長二年八月

五

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

正長二年八月

御所作 四辻宰相中將季保

山科宰相教豐

六

敦秋

鞞鼓

久秋

鉦鼓

豊原重秋

三鼓

家秋 鄉秋

着座公卿

万里小路大納言 花山院大納言

室町殿御引物平鞘御劍一金作、御馬一疋、花瓶一瑠璃、盆一、四幅一對  
唐繪花鳥、益一、攝政引物馬一疋白、太刀一、三寶院唐物種々被下云々、

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

廿八日、晴、今日室町殿鎧着初、管領出仕初、則評定初云々、自内裏風流破子三重被下、太平樂三重、鞞鼓二重、洲濱形二重、先日仙洞舞御覽破子也、殊勝驚目握翫無極、

廿九日、天氣快晴、今日本内裏遷幸也、散狀、

公卿

攝政 万里小路大納言 左大將大秋御門今夜拜賀 花山院大納言 勸修寺中納言

新中納言 葉室中納言 中御門宰相 山科宰相 廣橋四條宰相 隆夏朝臣

少納言

宗業真人

政光

次將

左

正長二年八月

七

正長二年八月

八

基尹朝臣 爲之朝臣 定長朝臣 隆遠朝臣

右

實雅朝臣麿璽役 資益

左衛門府

明世

右衛門府

範景 大石惟弘

左兵衛府

永豊朝臣

職事

房長朝臣 忠長朝臣 資親 明豊 政光 源重仲

源爲治

反閑

藤原懷藤

有富朝臣

供奉公卿攝政以下步行、鳳輦過了、次賢所御唐櫃二合渡御、供奉人可尋、每事如舊規、但非御移徒之儀只遷幸也、幸路室町殿立輿見物、凡立車以下貴賤群集諸大名辻固如牆云々、子初點渡御無爲無事也、新内裏本主三條前右府則返賜云々、抑主上御總角永豊朝臣勲仕、御總角者太炊御門相傳家之事也、然而冷泉ニ與奪云々、無念事也、

九月五日、晴、今夜改元定也、永享云々、勘者式部權大輔在豊朝臣也、仗儀公卿五人參、是代初改元也、仗儀散狀、

万里小路大納言 勸修寺中納言 葉室中納言 廣橋中納言 中山宰相中將

勘者

按察大納言資家 日野新中納言秀光 新中納言 式部大輔在直  
廣橋文資博士

長鄉朝臣同 在豊朝臣勸進年号 治定云々、

永享元年九月

九

20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51

十一日、晴、室町殿祇園北野社參、供奉人如八幡云々、

十六日、晴、室町殿日吉社參詣、供奉公卿殿上人晴儀也、散狀可尋、來廿二日春日詣也、

十七日、晴、日吉下向山徒所進御引物三千貫云々、社頭御寄進也、

十八日、雨下、楠木僧跡也、俗名五郎被召捕上洛、此間南都ニ忍居、是室町殿御下向爲伺申云々、筒井堄取高名也、爲天下珍重也、

廿一日、晴、明日室町殿春日詣見物密々思立、自今夜木幡へ行乗船、予、若宮、御沙弥、東御方、南御方、上蘿、近衛、春日御乳人、前宰田向相、庭田三位、長資朝臣、重賢、承泉、聖賢、梵祐、惣得菴、蒼玉菴、女官等相伴、木幡廻地藏邊小菴其前ニ構棧敷、先小菴今宿、西雲菴參來、兼約束申、曉天入棧敷、

廿二日、晴、自曉下向之人々貴賤往來、先一番前管領、畠山、山名先陣、次攝政、四方輿香織物小直衣番頭先行如恒、殿上人長政朝、臣尹賢朝臣各淨衣、隨身二人、着衣薄淡行粧美麗也、次陰陽師在方卿、白襖狩衣侍一人、次畠山修理大夫入道、乘輿騎馬濟々召具、次管領、武衛乘馬後騎數十騎中間等其勢二三百人許歟、行粧

義、麗次一色、數十騎、至午刻室町殿、先衛府侍十騎、狩衣、次隨身六人、  
狩織物色々、前行、次主人、四方輿蘇芳唐織物狩衣、番頭十餘人前行、力者、次  
殿上人實雅朝臣、永豐朝臣、隆遠朝臣、雅親、明豊嗣光、行尚、資益政光、教  
尹、各着淨衣、次諸大夫泰任朝臣、經康浮、次公卿万里小路大納言、四方輿  
人衣、諸大夫大夫一、勸修寺中納言、同前新藤中納言、秀光、山科宰相、各狩衣侍、  
次冷泉宰相入道、次武家近習人々四五十分騎、次門跡聖護院、坊官六寺  
岡崎若王寺、杉坊等也、三寶院昨日下向云々、次女中大方殿已下女房  
御兄弟之比丘尼、尼御前等輿四五十丁、御臺、今上蘿可有下向之處、不快事出來被留申云々、長老達、御請飯衆、拂曉下向、次後陳細河右馬助、讚岐守等其勢千人許、凡人々  
行粧奇麗、希代見物也、事了菴ニ歸、小駄餉盃酌了歸、子時、又乘船西雲  
菴相伴、直被歸、

廿三日、晴、今日春日社、興福寺參詣云々、

廿四日、晴、先日被召捕楠木、今夕於六條河原被刎首、侍所赤松所司代六

永享元年九月

一二

七百人取圍斬之、スミ手魚其躰尋常ニ被斬、先召寄硯紙作頑、幸哉依小人虛詐成大謀高譽珍重々々、

不來不去攝真空 万物乾坤皆一同 卽是甚深無二法

秋霜三尺斬西風

なか月やすゑ野の原の草のうへに

身のよそならてきゆる露かな

我のみかたか秋の世もすゑの露

もとのしつくのかゝるためしを

夢のうちに宮この秋のはてはみつ

こゝろは西にあり明の月

永享元 九月廿三日 楠木五郎左衛門尉光正 常 泉

見物人河原充满、自南都御使立、急可斬之由被仰、其形僧也、頑哥等天下美談也、楠木首四塚ニ被懸云々、

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

廿九日、晴、室町殿自南都下向宇治自平等院乘船、伏見着岸子時、指月菴被參、則乘輿大光明寺門前被通、予女中男共相伴惣得菴ニ行、自敷之中見物之、供奉人々如先日、殿上人皆織狩衣也、公卿同前、衛府隨身諸大名等自木幡入洛、女中乘船同當所ニ着、但寺門前不通見物畢、惣得菴有一獻、前宰相惣出京、勸修寺雜色走參惣可有出京之由申、御下向無爲、境內入御、御禮殊更御効一腰進之、宰相歸參、勸修寺申於指月可被申御禮之處、無其儀之間、進使者云々、誠越度也、後聞、南都之儀若宮祭結構、其外延年猿樂盡善美云々、兩門跡已下衆徒之御引物太刀、鎧、唐物、料足三千貫云々、悉春日社御寄進、攝政引物三百貫云々、將又雅兼朝臣督侍佐益長爲見物南都密々下向、室町殿被御覽付、有突鼻被迫籠云々、

十月一日、晴、於藏光菴有結縁灌頂事、菴主爲阿闍梨讚衆山久住者也、自今日三ヶ夜有此儀、予、女中、男共結縁打之、教授者横河之鷄足坊云々、

永享元年十月

一三

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

永享元年十二月

一四

真言碩學隨分名僧云々

廿三日、晴、政始被行、上卿勸修寺中納言、參議中山宰相中將也、官廳未及立柱先以假屋被行云々、前御代不被行中絕之處再興珍重也、御卽位十二月必定也、傳奏按察大納言奉行、頭弁忠長朝臣云々、

廿七日、晴、今日官廳立柱上棟也、事儀嚴重云々、

十二月二日、晴、崇光院卅三廻、明年正月十三日聖忌也、年内御追修引上、自今日於御所七ヶ日御時等有勤行、仙洞、室町殿此由申之間可有御助成云々、

十二日、晴、安樂光院長老僧衆六人參、有懺法、兼日可爲講演之由治定之處、自仙洞被仰下有子細俄止之、無念無極、仙洞御助成二千疋今夕到來、

十三日、晴、於大光明寺有御經供養、導師花園房能僧正、題名僧三口參、勸修寺中納言奉行也、早旦參堂莊嚴等令奉行、事了御所ニ參、吾代初參

有一獻、七獻了退出、寺ニ參、予大光明寺參、付衣乘輿、長資朝臣、隆富朝臣、重賢各布衣、御共參、田向前宰相衣冠、庭田三位同、於寺參會、地藏殿御所間爲休所女中聽聞同參、未剋御經供養始、着座公卿、勸修寺中納言直下結衣、綾小路前宰相衣冠、庭田三位衣冠、布施取殿上人長資朝臣布衣、行豐朝臣布衣、隆富朝臣萌木狩衣、重賢布衣、廳官定直布衣、下家司氏鄉衣冠、御承仕明盛法橋純色、清賢淨衣、堂童子六位略之、於地藏殿有此儀任先例、一品經面々支配、相應院宮々女中舊臣等悉進之、加布施如例、本尊阿彌陀像大内記新調、御願文諷誦等草爲清朝臣、清書行豊朝臣也、室町殿御助成万疋到來珍重也、委細事別紙記之、

今夜禮服御覽也、勸修寺參云々、仍忿退出、被行叙位、執筆月輪宰相也、十八日、晴、等持寺八講結願也、勝定院殿第三廻也、仍御經壽量品一卷、御馬一疋但代五百疋、進之、勸修寺執達、

永享元年十二月

一五

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

參、長老以下僧衆十八人、導師明仲西堂、香華雄首座、僧衆清選聲明殊勝也、於大通院執行、今夜指月菴一宿、

廿日、雪降、早旦寺ニ參、有點心齊半齊、諷經僧衆四十餘人、境內菴僧達大略招請、抑余崇光院爲孫弟令相續、值卅三廻勵追修之懇志、預公武之御助成執行涯分之法會、志孝之至欣悅無極者也、

廿六日、朝雪降、今日官司行幸也、散狀、

公卿

久我  
内大臣 藤大納言 隆光 京極中納言 實光 葉室中納言 宗豊 山

科宰相 不參(豊卿)、但行幸  
不參(還幸供奉)、四條宰相 隆夏 三位中將 實量卿、

少納言

宗業真人

弁

資親朝臣

次將

左

雅永朝臣 基尹朝臣

右

實雅朝臣 還幸、  
劍璽役、資益

左衛門府

員弘

右衛門府

範景

職事

頭左大介 房長朝臣 忠長朝臣 政光 嗣光 源重仲 藤原懷藤

反閑

有富朝臣

永享元年十二月

一七

永享元年十二月

一八

儲御所

明豊左少弁 源爲治

明日御卽位也、爲見物南御方出京、東御方、近衛、春日御乳人等相伴、永基朝臣宿所ニ立寄、前源宰相、庭田三位、長資朝臣、重賢、行資、同出京、行幸今夜丑刻出御、毎事嚴重無爲云々、左大將兼日參之由聞、不載散狀不參歟不審也、

廿七日、晴、御卽位戌初點被行、室町殿參、攝政相共毎事申沙汰嚴重云々、

散狀、

内辨

左大臣房嗣 公

外弁

万里小路大納言時房 花山院大納言持忠 勸修寺中納言經成  
新藤中納言秀光 飛鳥井宰相雅世 中御門宰相宗繼

宣命使

勸修寺中納言

典儀

長政朝臣

弁

資親朝臣

擬侍從

左

中山宰相中將定親

行豐朝臣

宗業真人

四辻宰相中將季保

知俊朝臣

長鄉朝臣

右

左近府

大將代

永享元年十二月

一九

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

永享元年十二月

家長朝臣

中將代

多々々不參、有先  
例云々、先

少將代

多々々同、

右近府

大將代

範周

中將代

多久賴

少將代

多忠英

次將

左 爲之朝臣 定長朝臣 隆遠朝臣 雅豊

右 光清朝臣 行尙 資益

左衛門府

大尉明世

右衛門府

佐範景

左兵衛府

佐永基朝臣

反閂

有富朝臣

奉行右大弁忠房朝臣、傳奏按察大納言資家也、每事無爲、天氣快晴事  
穢人頭

永享元年十二月

二一

二〇

20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51

永享元年十二月

二二

々周備、一天大慶万人美談也、今夜還幸寅刻云々、  
廿八日、晴、女中皆被歸、南御方入江殿へ初參、兩夜留云々、御卽位之儀拜  
見珍重之外言詞難述盡之由面々申、喜悅無極、

廿九日、晴、禁裏、仙洞、室町殿、大禮無爲珍重之由賀申入、左曆已責軸、忿劇  
珍重而已、

宮内省圖書寮

昭和七年十二月二十日印刷  
昭和七年十二月廿五日發行

印刷所 便利堂印刷所  
京都市新町通竹屋町南入  
印刷者 中村竹四郎  
京都市新町通竹屋町南入

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

